

「デフレの原因は根本的な思想の誤りなのでは？」

●佐倉惣五郎さんからの質問

デフレ経済に陥った原因は、単に経済政策の誤りではなく、根本的な思想の誤りだったのではないのでしょうか。

●西田昌司の答え

私もその通りだと思います。経済とは「経世済民」の略であり、経世済民とは「世を治め、人民を救う」という意味を持ちます。国民全体の生活を豊かにすることが目的であり、経済政策には国全体を考える視点が必要です。しかし、ここ20年間に流行った新自由主義や構造改革といった経済政策は、この根本の視点を忘れています。これらの誤った経済政策の思想的背景には、「大企業や富裕層の支援政策を行うと経済が活性化し、富が低所得層に向かって徐々に流れ落ちて、国民全体が豊かになる」というトリクルダウン理論があります。

第二次世界大戦後の世界は、アメリカを盟主とする資本主義・自由主義陣営と、ソビエト連邦を盟主とする共産主義・社会主義陣営との対立構造があり、東西冷戦と呼ばれ、1989年まで続きました。共産主義の理念は「社会全体を豊かにする」ことであり、まさに経世済民です。「貧富の差をなくして、働いた分は搾取されずに自分のものとなるように、様々な規制の強化をしよう。皆がそれぞれ自由に投資するのではなく、国が計画して必要な投資をすれば、富裕者の為のみならず、国全体が豊かになるだろう」という考え方であり、これ自体に関してはなかなか立派なものだと思います。しかし、実際には国は全ての情報を持っているわけではありませんから、どうしても非効率的になってしまいます。また、共産主義の役人社会が腐敗することは、歴史が証明しています。

一方、自由主義は「規制を取り除いて市場にまかせる」考え方です。冷戦末期のサッチャリズム、レーガノミクスはこの考えを推し進めたものでした。自由主義諸国の経済力が勝って東西冷戦が終焉し、ソビエトをはじめとする東側諸国もいっせいに自由主義を採用しました。国よりも民間にまかせることで経済が活性化し、トリクルダウンが起きて国民全体が豊かになる、という自由主義的な方向へ一気に傾いてしまい、自由放縦・放任を標榜する新自由主義が世界中に台頭しました。しかしその結果、トリクルダウンは起きずに、むしろ貧富の差が拡大してしまいました。この傾向はアメリカが最も顕著であり、1%の人が社会全体の富の半分以上を占有するような社会になっています。また日本でも、ユニクロのような会社の賃金体系はまさにアメリカ型となっております（西田ビジョン「西田昌司×三橋貴明経済対談」を参照）。しかし、1%の富裕層が富を占有するよりも、残りの99%の人に富をまんべんなく分配した方が経済のパイが大きくなるということは、冷静に考えれば誰もがわかることです。また、一部の人に富が集中すると、不公平感・閉塞感の漂う社会を招いてしまいます。「いくら働いてもまともな生活は出来ない」ということになると、人は働く意欲を無くしてしまい、治安も悪くなります。

アベノミクスは今のところ、取り敢えずは成功しています。1番目の矢として、日銀の異次元の金融緩和が挙げられていますが、この矢は本来は2番目の矢とすべきです。2番目の矢といわれる政府の財政出動が、本来は1番目の矢です。現在、民間銀行は預金超過で150兆円ものお金が滞留しています。政府が国債を発行して民間銀行に引き受けさせて、政府は得た資金で財政出動して需要を増やさねばなりません。しかし、政府の国債発行により民間銀行からお金が吸い上げられ、民間銀行が貸すことのできるお金が少なくなると、金利が上昇し企業が借りにくくなります。この現象をクラウディングアウトと呼び、国債を発行し過ぎると経済に悪影響を与える心配があります。これをコントロールするのが日銀の役割です。日銀が民間銀行から国債を買い上げて民間銀行に資金を供給し、金利上昇を抑えなければなりません。こうやって政府と日銀が協調して経済が回り出せば、民間経済に火が付き、GDPが増えて税収も増えるので、国債も返せます。このように金利上

昇をコントロールしながら緩やかなインフレを作り出して、デフレから脱却させるのです。

共産主義が敗北して冷戦が終了し、新自由主義的な経済学が席卷して、世界中が大失敗をしました。私は共産主義を信奉するつもりは全くありませんが、徹底的に規制緩和を推し進める新自由主義的な発想も警戒すべきであり、両者を上手くバランスさせることが重要です。3番目の矢といわれる成長戦略に関しても「この政策は経世済民になっているか。一部の人だけが利益を得ていないか」という観点で検討をせねばなりません。日本では「構造改革」という聞こえの良い言葉の前に皆が思考停止をしてしまい、20年近く誤った経済政策が推し進められましたが、これが間違いであったことは今では明らかです。安倍総理にもこのようなことをしっかりと話ししたいと思っています。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>